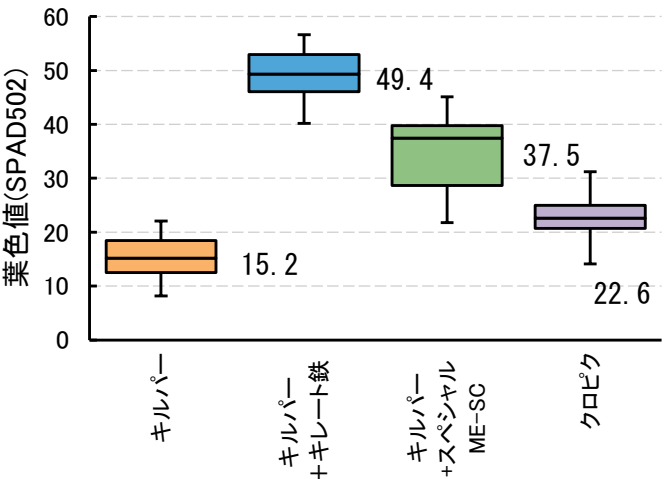


コンニャク栽培におけるクロルピクリン代替薬剤使用時のキレート鉄施用による減収対策

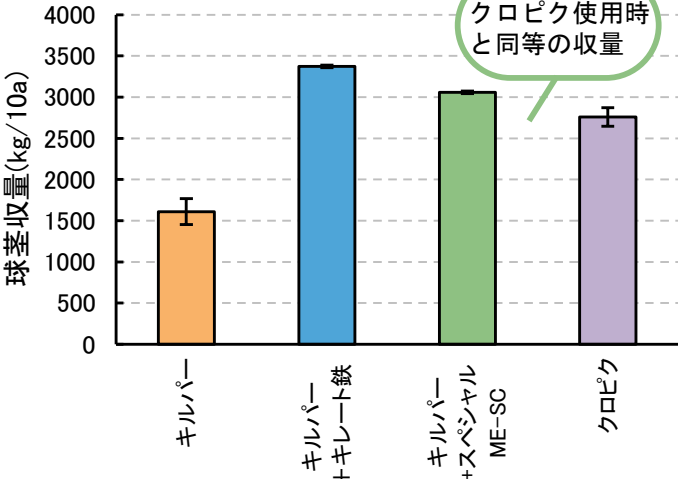
鉄欠乏が発生しやすい畑でコンニャクの土壌消毒にキルパーを使用した場合でも、コンニャク出芽前にキレート鉄(植物が利用しやすい形の鉄)を含む資材を施用することにより、生育の悪化を防ぐことができます。

土壌消毒に使用されるクロルピクリンは、強い刺激臭や周辺環境への負荷が高いため、代替薬剤としてキルパーが使用されることがあります。しかし、鉄欠乏が発生しやすい畑でキルパーを使用すると葉色・収量の低下等が発生することがありました。そこで、キルパーを使用した際でも、収量が低下しない施肥体系を検討しました。

土壌中の銅やリン酸が高く鉄欠乏が発生しやすい畑では、**キレート鉄資材を施用すると、生育や収量が改善します。**



コンニャクの葉色値



コンニャクの収量



試験ほ場の様子

	収量 (kg/10a)	販売価格 ※1	鉄資材 資材費※2
キルパー	1,467	187,981円	—
キルパー+ スペシャル ME-SC	2,215	283,830円	6,780円

※1: 販売価格は農林水産省統計部「農業物価統計調査報告」の過去10年間の平均価格から算出した

※2: スペシャルME-SCを2kg/10aで施用した場合

資材の施用に関する費用

利用上の留意点

鉄欠乏症状の対策は鉄資材の散布だけでなく、①リン酸の過剰施用を避ける、②ボルドー液の使用回数を減らす、③堆肥など有機質資材(リン酸や銅含量の少ないもの)を施用するなどの総合的な土壌管理が必要です。